

インタビュー 人命最優先のための訓練

約130カ国で事業を展開する豊田通商。進出先には中東・アフリカなどの危険地域も少なくない。同社では社員の命を守るための訓練を実施している。

豊田通商株式会社 危機管理・BCM 推進室長

山下昌宏 さん

頭では分かっているも

— 社員の命を守るための訓練はいつから実施しているのですか。

セキュリティの専門会社に依頼し、2014年から英国とフィリピンで実施しています。きっかけは、13年にアルジェリアで起こったテロ事件です。

— かなりハードな訓練だと聞いています。

基本的には午前中が教室での座学、午後が実践的なロールプレイで、3日間かけて行います。

誘拐・拘束や襲撃など、実際のトラブル発生を想定し行われます。元特殊部隊が講師役で、外国人の役者たちが犯人や被害者になりきって演じるのでリアル、とても迫力があります。

英国ではイスラム武装組織などのテロリストの襲撃を想定し、誘拐されたときの対応を学びます。身柄を拘束されると直ちにその場で頭から袋をかぶせられ、まずは視界を奪われます。その後、場所を移動して肩幅より少し足を広げ

て立ち、両手を頭の後ろに回した状態で苦しい姿勢を強要されます。命を守るために強調されるのは、絶対に犯人に逆らわない、そして、必ず助けが来ると希望を捨てずに生き続けるということです。とはいえ、息苦しいし疲れるし、訓練だと分かっているも、体力的にも精神的にも相当きついです。

訓練では銃で撃たれた仲間を救助する方法なども実践します。止血のための包帯の巻き方や、骨折箇所の固定など、午前中に座学で習った後で、午後の実技に臨みます。襲撃され血を出して倒れている人を前にすると、演技と分かっているも、なかなか教わったように対処することはできません。

フィリピンでは銃犯罪を対象とした訓練も実施します。軍出身の講師が実弾射撃するところを見学し、ピストルとライフルの威力や音などの違いも含めて体験してもらうというものです。動く標的は経験豊富な軍出身者が狙っても的中率は高くない、ジグザグに走って逃げると



訓練風景